

第 5 編

工業用 水道事業

◎全国の工業用水道事業者数

	30年度	29年度	増減
都道府県営	39	40	△ 1
指定都市営	9	9	0
市営	81	81	0
町村営	17	17	0
企業団営	10	9	1
計	156	156	0

1	事業の沿革	P193
2	施設の概要	P194
3	事業の概要	P195
4	財務の状況	P196

第5編 工業用水道事業

1 事業の沿革

(1) 沿革

年	月	日	主 要 事 項
平成	2.	3.	森本丘陵工業用地開発基本構想を策定
	3.	3.	〃 開発基本計画を策定
	4.	3.	〃 土地区画整理事業の認可
		〃	〃 第1工区の開発造成に着手
	5.	7. 29	工業用水道計画調査を開始
	6.	3. 15	〃 完了
	7.	3. 31	工業用水道事業届出を通産省へ提出
	〃	5. 8	工業用水道事業施設基準の適合認可
	8.	1. 10	浄水場及び配水場用地の取得完了
	〃	3. 25	浄水場管理棟築造
	〃	5. 10	導水ポンプ場及び導水管路用地の取得完了
	〃	12. 26	下涌波導水ポンプ場築造
	9.	3. 3	工業用水道事業の料金設定を通産省へ申請
	〃	3. 11	工業用水道事業料金設定の承認通知
	〃	3. 24	給水開始届出を通産省へ提出
	〃	4. 1	一部給水開始
	〃	5. 14	給水開始（責任水量 200m ³ /日）
	10.	9. 22	台風7号による集中豪雨で涌波川氾濫、浄水場浸水
	11.	5. 28	浸水対策として輪中方式のコンクリート擁壁完成
	13.	10. 31	第2工区内配水管布設完了
	14.	3. 29	第3工区内配水管布設完了
	17.	10. 26	第2工区内給水開始
	27.	12. 24	企業局総合防災計画策定

(2) 工業用水道事業の計画概要と工事進捗状況

金沢市工業用水道事業は、本市産業の多角化・高度化を目指して、先端産業等の集積拠点として整備中の金沢テクノパークに、安定かつ良質な工業用水を供給するための事業である。

その水源として、涌波川支川表流水及び月浦町溜池の貯留水を取水し、ポンプ圧送により浄水施設に導水し、浄水処理後、さらにポンプにより配水池に送水して、自然流下で各企業に3,100m³/日の工業用水を供給する計画である。

これまでの間、涌波川支川を水源とした、1,700m³/日の給水能力を有する施設を建設し、事業を進めてきている。平成7年度～8年度にかけて取水地点から浄水場に至るまでの施設設備として、取水ぜき、導水ポンプ場、導水管1,059m、浄水場（一部設備を除く）の工事を完了した。またこれらと併行して送水管1,742m、配水池、配水管1,236mの工事を完了し、平成9年4月より第1工区内への給水を開始した。平成9年度には浄水場の中央監視制御、自家発電設備工事を施工するとともに、配水管589mの工事を完了した。平成13年度には配水管1,514mの工事を完了した。平成17年10月より第2工区内への給水を開始した。

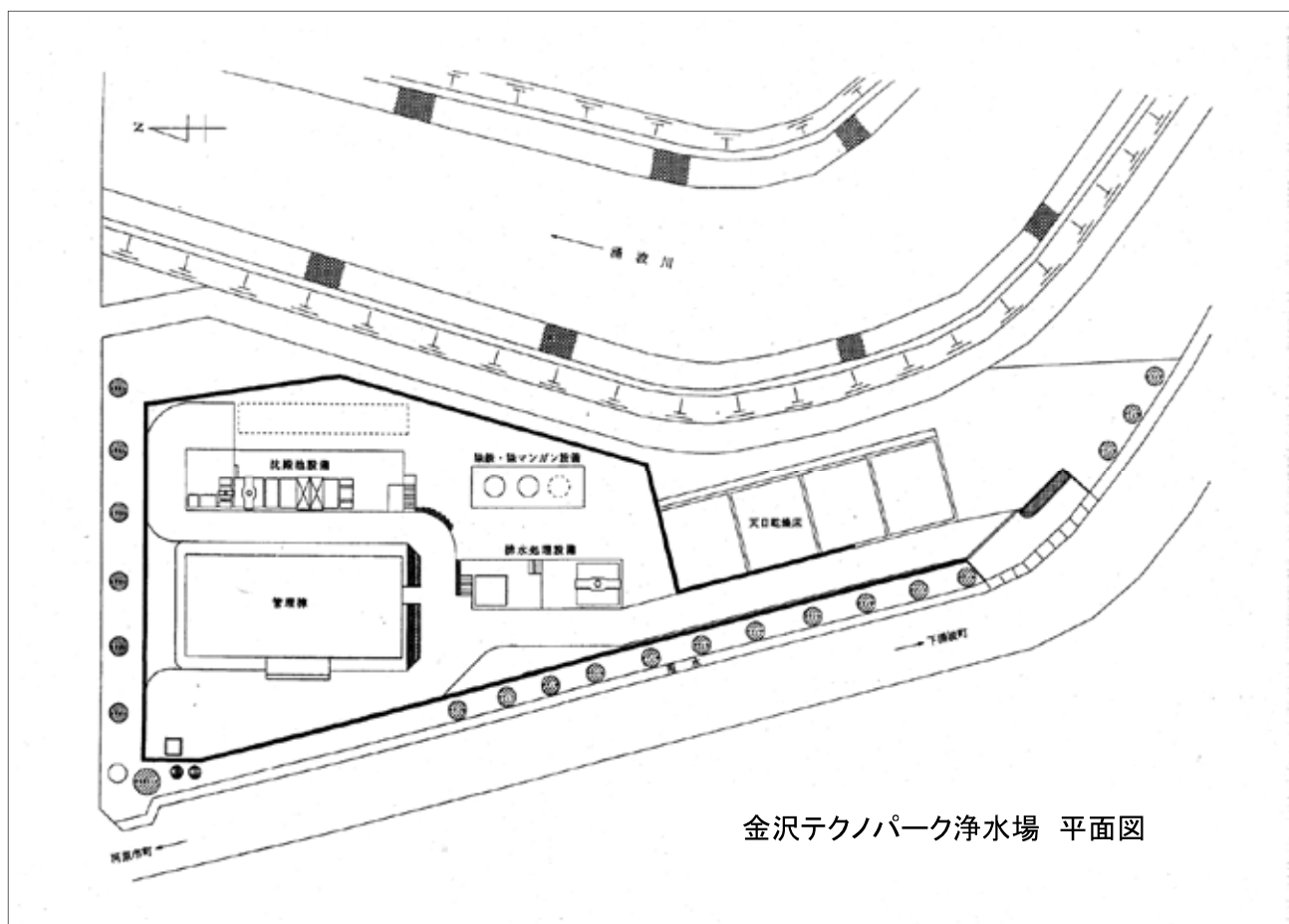
2 施設の概要

1 所在地	金沢市北陽台3丁目31
2 敷地面積	3,862.19 m ²
3 竣工	平成9年4月（一部給水開始）
4 能力	1,700 m ³ /日
5 配水方法	自然流下

種別	工種	内容	数量
取水施設	涌波川支川取水堰	コンクリート堰（スクリーン式）	1箇所
導水施設	導水ポンプ	$\phi 80\text{mm} \times \phi 65\text{mm} \times 1.27\text{m}^3/\text{分} \times 26\text{m} \times 11\text{kW}$	2台
	導水ポンプ場	ポンプ室、ポンプ井、発電機室 RC造、延床面積 106m ²	
	導水ポンプ井	長 6.4m × 幅 2.4m × 深 3.3m = 50.7m ³ /池	2池
	導水管	VU $\phi 250\text{mm}$ 310m DIP $\phi 150\text{mm}$ 749m	計 1,059m
浄水施設	着水井	長 3.2m × 幅 1.5m × 深 3.4m = 16.3m ³	1池
	混和池	機械攪拌式 長 3.1m × 幅 1.5m × 深 3.1m = 14.4m ³	1池
	フロック形成池	フロキュレーター式 長 3.5m × 幅 3.5m × 深 3.0m = 36.8m ³	1池
	薬品沈澱池	横流式傾斜板等沈降装置付 長 8.5m × 幅 3.5m × 深 3.3m = 98.2m ³	1池
	除鉄・除マンガン設備	圧力式ろ過機 70m ³ /(h・基) $\phi 2.8\text{m}$	2基
	薬品注入設備	使用薬品：水道用ポリ塩化アルミニウム 次亜塩素酸ナトリウム、苛性ソーダ	
	浄水棟	長 6.9m × 幅 5.5m × 深 3.2m = 121m ³ /池 薬注室、電気室、発電機室、監視室、送水ポンプ室 水質試験室 RC造、延床面積 479m ²	2池
排水処理施設	調整施設	排泥池 長 3.0m × 幅 2.0m × 深 3.0m = 18.0m ³ 排水池 長 5.0m × 幅 5.0m × 深 3.0m = 75.0m ³	1池 1池
	濃縮施設	濃縮槽 長 5.0m × 幅 5.0m × 深 4.5m = 113m ³	1槽
	脱水施設	天日乾燥床 長 9.0m × 幅 8.7m × 深 0.7m = 54.8m ³ /池	4床
送水施設	送水ポンプ	$\phi 125\text{mm} \times \phi 125\text{mm} \times 1.08\text{m}^3/\text{分} \times 110\text{m} \times 37\text{kW}$	2台
	送水管	DIP $\phi 250\text{mm}$ 1,742m	計 1,742m
配水施設	配水池	長 11.0m × 幅 4.0m × 深 3.0m = 132m ³ /池	2池
	配水管	DIP $\phi 250\text{mm}$ 627m $\phi 200\text{mm}$ 1,212m $\phi 150\text{mm}$ 157m $\phi 100\text{mm}$ 783m $\phi 75\text{mm}$ 35m 鋼管 $\phi 200\text{mm}$ 266m SUS $\phi 100\text{mm}$ 259m	計 3,339m

3 事業の概要

項目		年度			
		28年度	29年度	30年度	元年度
給水先事業所数 (所)		5	5	5	5
一日最大配水量 (m ³ /日)		742	706	858	764
一日平均配水量 (m ³ /日)		635	601	624	609
配水量 (m ³ /年)		231,710	219,292	227,231	222,110
有収水量 (m ³ /年)		231,710	219,292	227,231	222,110
無収水量 (m ³ /年)		0	0	0	0
無効水量 (m ³ /年)		0	0	0	0
給水量	契約給水量 (m ³ /年)	239,075	239,075	238,420	239,075
	実給水量 (m ³ /年)	231,710	219,292	227,231	222,110
	給水率 (%)	96.9	91.7	95.3	92.9



4 財務の状況

(1) 財務状況の推移

ア 収益的収入及び支出(消費税抜き)

(単位：円)

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
収益的 収入 支出	事業収益（A）	49,661,008	45,029,784	44,722,559	41,330,704
	給水収益	11,958,885	11,158,965	11,720,880	11,366,955
	営業外収益	29,685,123	25,853,819	24,982,469	29,963,749
	その他	8,017,000	8,017,000	8,019,210	—
	事業費用（B）	49,661,008	45,029,784	44,722,559	41,330,704
	人件費	10,412,907	8,401,446	7,080,987	6,759,858
	支払利息	4,163,818	3,590,778	3,002,920	2,393,503
	減価償却費	15,750,888	15,507,684	15,322,590	15,263,743
	動力費	3,840,451	4,019,817	4,806,976	4,481,189
	修繕費	5,005,400	5,272,482	4,804,810	3,513,000
	薬品費	1,353,850	1,327,200	1,663,400	1,460,600
	その他	9,133,694	6,910,377	8,040,876	7,458,811
	差引（A）－（B）	0	0	0	0

(注) 人件費には、児童手当を含む。

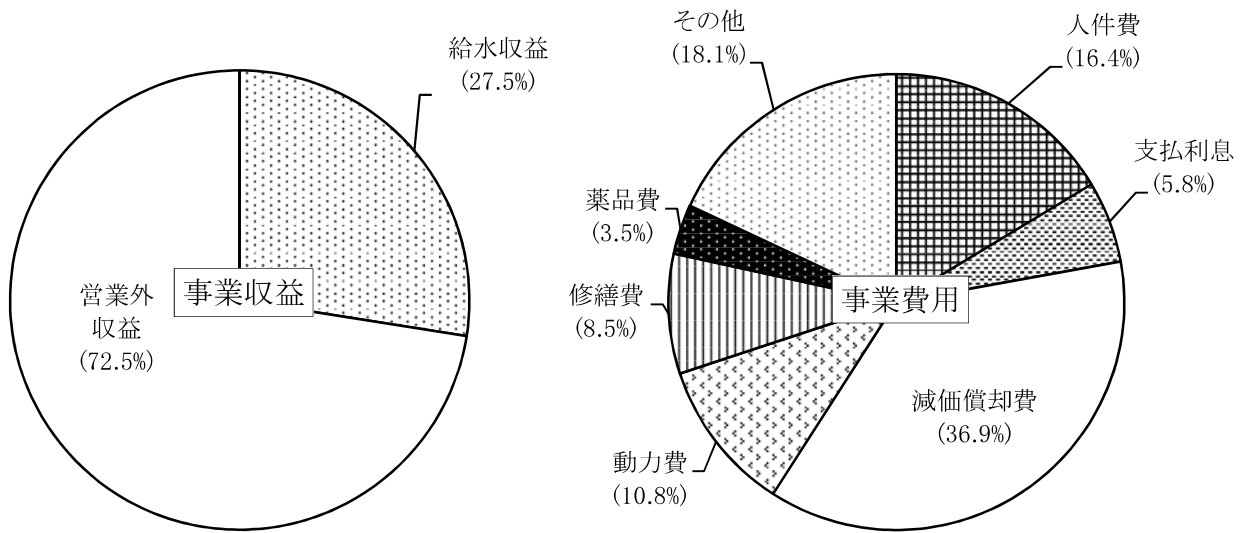
イ 資本的収入及び支出(消費税込み)

(単位：円)

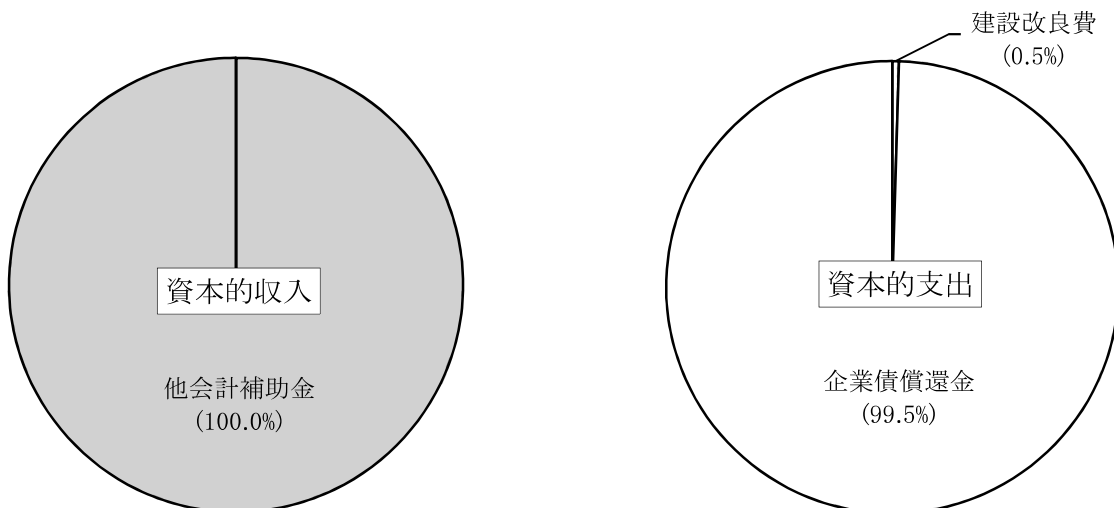
区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
資本的 収入 支出	資本的収入（C）	16,338,150	16,795,481	17,265,998	17,750,084
	企業債	—	—	—	—
	国庫補助金	—	—	—	—
	他会計補助金	16,338,150	16,795,481	17,265,998	17,750,084
	資本的支出（D）	20,422,688	21,852,951	21,757,458	22,292,106
	建設改良費	—	858,600	174,960	104,500
	企業債償還金	20,422,688	20,994,351	21,582,498	22,187,606
	その他	—	—	—	—
	差引（C）－（D）	△ 4,084,538	△ 5,057,470	△ 4,491,460	△ 4,542,022

令和元年度工業用水道事業財務状況構成図

収益の収支



資本的収支



(2) 損益計算書比較

区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率
事業収益	49,661,008	100.0	45,029,784	100.0	44,722,559	100.0	41,330,704	100.0
営業収益	11,958,885	24.1	11,158,965	24.8	11,720,880	26.2	11,366,955	27.5
給水収益	11,958,885	24.1	11,158,965	24.8	11,720,880	26.2	11,366,955	27.5
営業外収益	29,685,123	59.8	25,853,819	57.4	24,982,469	55.9	29,963,749	72.5
受取利息及び配当金	203,034	0.4	133,652	0.3	91,337	0.2	64,000	0.2
他会計補助金	13,538,601	27.3	10,059,107	22.3	9,521,091	21.3	14,930,074	36.1
長期前受金戻入	15,271,733	30.7	15,022,615	33.4	14,711,903	32.9	14,263,443	34.5
雑収益	671,755	1.4	638,445	1.4	658,138	1.5	706,232	1.7
特別利益	8,017,000	16.1	8,017,000	17.8	8,019,210	17.9	—	—
固定資産売却益	—	—	—	—	—	—	—	—
その他特別利益	8,017,000	16.1	8,017,000	17.8	8,019,210	17.9	—	—
事業費用	49,661,008	100.0	45,029,784	100.0	44,722,559	100.0	41,330,704	100.0
営業費用	44,747,135	90.1	40,786,064	90.6	40,993,983	91.7	38,201,032	92.4
原水及び浄水費	15,818,469	31.9	15,897,836	35.3	17,907,848	40.0	15,551,270	37.6
配水及び給水費	2,474,138	5.0	653,704	1.5	345,544	0.8	298,500	0.7
総係費	10,703,640	21.5	8,674,221	19.3	7,418,001	16.6	7,087,519	17.2
減価償却費	15,750,888	31.7	15,507,684	34.4	15,322,590	34.3	15,263,743	36.9
資産減耗費	—	—	52,619	0.1	—	—	—	—
営業外費用	4,913,873	9.9	4,243,720	9.4	3,728,576	8.3	3,129,672	7.6
支払利息及び 企業債取扱諸費	4,163,818	8.4	3,590,778	8.0	3,002,920	6.7	2,393,503	5.8
繰延勘定償却	—	—	—	—	—	—	—	—
貸倒償却	—	—	—	—	—	—	—	—
雑支出	750,055	1.5	652,942	1.4	725,656	1.6	736,169	1.8
特別損失	—	—	—	—	—	—	—	—
その他特別損失	—	—	—	—	—	—	—	—
当年度純利益	—	—	—	—	—	—	—	—
前年度繰越利益剰余金 又は前年度繰越欠損金	—	—	—	—	—	—	—	—
その他未処分利益 剰余金変動額	—	—	—	—	—	—	—	—
当年度未処分利益剰余金 又は当年度未処理欠損金	—	—	—	—	—	—	—	—

(3) 貸借対照表比較

資産の部

区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率
固 定 資 産	円	%	円	%	円	%	円	%
	482,481,121	65.8	467,715,818	66.4	452,555,228	67.1	437,386,485	66.5
有形固定資産	482,470,921	65.8	467,715,818	66.4	452,555,228	67.1	437,386,485	66.5
土地	40,545,152	5.5	40,545,152	5.8	40,545,152	6.0	40,545,152	6.1
建物	107,689,284	14.7	102,860,257	14.6	98,031,230	14.5	93,202,203	14.2
構築物	297,070,542	40.5	286,843,861	40.7	276,617,180	41.0	266,390,499	40.5
機械及び装置	37,113,324	5.1	36,671,548	5.2	36,583,541	5.4	36,583,541	5.6
車両運搬具	52,619	0.0	795,000	0.1	616,125	0.1	437,250	0.1
工具器具備品	—	—	—	—	162,000	0.1	132,840	0.0
建設仮勘定	—	—	—	—	—	—	95,000	0.0
無形固定資産	10,200	0.0	—	—	—	—	—	—
電話加入権	—	—	—	—	—	—	—	—
施設利用権	10,200	0.0	—	—	—	—	—	—
その他無形固定資産	—	—	—	—	—	—	—	—
投資その他の資産	—	—	—	—	—	—	—	—
投資有価証券	—	—	—	—	—	—	—	—
流 動 資 産	250,300,668	34.2	236,570,764	33.6	221,639,074	32.9	220,526,701	33.5
現金・預金	249,166,258	34.0	235,645,990	33.5	220,730,264	32.8	219,407,736	33.3
未収金	1,134,410	0.2	924,774	0.1	908,810	0.1	1,118,965	0.2
資 産 合 計	732,781,789	100.0	704,286,582	100.0	674,194,302	100.0	657,913,186	100.0

負債及び資本の部

区 分	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度	
	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率	金額	構成比率
固 定 負 債	円 127,065,146	% 17.3	円 106,205,648	% 15.1	円 84,788,042	% 12.6	円 62,159,517	% 9.4
企業債	120,097,732	16.4	98,515,234	14.0	76,327,628	11.3	53,517,450	8.1
建設改良費等の財源に充てるための企業債	120,097,732	16.4	98,515,234	14.0	76,327,628	11.3	53,517,450	8.1
引当金	6,967,414	0.9	7,690,414	1.1	8,460,414	1.3	8,642,067	1.3
退職給付引当金	6,967,414	0.9	7,690,414	1.1	8,460,414	1.3	8,642,067	1.3
流 動 負 債	35,950,643	4.9	35,310,279	5.0	32,872,868	4.9	36,527,322	5.6
企業債	20,994,351	2.8	21,582,498	3.1	22,187,606	3.3	22,810,178	3.5
建設改良費等の財源に充てるための企業債	20,994,351	2.8	21,582,498	3.1	22,187,606	3.3	22,810,178	3.5
未払金	7,117,887	1.0	7,937,081	1.1	3,937,672	0.6	5,591,197	0.9
未払費用	829,188	0.1	145,029	0.0	117,761	0.0	89,518	0.0
引当金	625,000	0.1	645,000	0.1	660,000	0.1	693,000	0.1
賞与等引当金	625,000	0.1	645,000	0.1	660,000	0.1	693,000	0.1
その他流動負債	6,384,217	0.9	5,000,671	0.7	5,969,829	0.9	7,343,429	1.1
繰 延 収 益	324,472,533	44.3	316,996,400	45.0	310,262,596	46.0	312,955,551	47.6
長期前受金	324,472,533	44.3	316,996,400	45.0	310,262,596	46.0	312,955,551	47.6
資 本 金	207,153,048	28.3	207,153,048	29.4	207,153,048	30.7	207,153,048	31.5
資本金	207,153,048	28.3	207,153,048	29.4	207,153,048	30.7	207,153,048	31.5
剰 余 金	38,140,419	5.2	38,621,207	5.5	39,117,748	5.8	39,117,748	5.9
資本剰余金	38,140,419	5.2	38,621,207	5.5	39,117,748	5.8	39,117,748	5.9
受贈財産評価額	—	—	—	—	—	—	—	—
補助金	38,140,419	5.2	38,621,207	5.5	39,117,748	5.8	39,117,748	5.9
利益剰余金	—	—	—	—	—	—	—	—
当年度未処分利益剰余金	—	—	—	—	—	—	—	—
負 債 ・ 資 本 合 計	732,781,789	100.0	704,286,582	100.0	674,194,302	100.0	657,913,186	100.0

(4) 経営分析

① 業務比率

項目	公式	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
負荷率 (%)	$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日最大配水量}} \times 100$	85.6	85.1	72.7	79.7	施設の利用度を把握する。100%に近い程良い。
施設利用率 (%)	$\frac{\text{一日平均配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$	37.4	35.4	36.7	35.8	負荷率×最大稼働率原則として100%に近い程良い。
最大稼働率 (%)	$\frac{\text{一日最大配水量}}{\text{一日配水能力}} \times 100$	43.6	41.5	50.5	44.9	施設の利用の適切性をみる。高い程良いが、余り100%に近づいても良くない。
有収率 (%)	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{年間総配水量}} \times 100$	100.0	100.0	100.0	100.0	浄水場から配水された工業用水のうち、料金として徴収される水量の割合。高い程良い。
配水管使用効率 (m ³ /m)	$\frac{\text{年間総配水量}}{\text{導送配水管延長}}$	37.7	35.7	37.0	36.2	導送配水管1m当たりの配水量をみて、その効率をはかるもの。数値が大きいかい程利用効率が良い。
固定資産使用効率 (m ³ /万円)	$\frac{\text{年間総配水量}}{\text{有形固定資産 (万円)}}$	4.8	4.7	5.0	5.1	有形固定資産1万円当たりの配水量をみて、その効率をはかるもの。数値が大きいかい程良い。
有収水量 (円/m ³)	$\frac{\text{給水収益}}{\text{年間総有収水量}}$	51.61	50.89	51.58	51.18	供給単価
給水費用 (円/m ³)	$\frac{\text{経常費用 - 長期前受金戻入}}{\text{年間総有収水量}}$	148.42	136.84	132.07	121.86	給水原価
職員一人当たり	$\frac{\text{年間総有収水量}}{\text{損益勘定所属職員数}}$	231,710	219,292	227,231	222,110	職員数は定数内の損益勘定所属職員数
	$\frac{\text{営業収益}}{\text{損益勘定所属職員数}}$	11,959	11,159	11,721	11,367	
	$\frac{\text{期末有形固定資産}}{\text{損益勘定所属職員数} + \text{資本勘定所属職員数}}$	482,471	467,716	452,555	437,386	

② 資産・負債及び資本構成比率

項目	公 式	28年度	29年度	30年度	元年度	備 考
固定資産構成比率 (%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定資産} + \text{流動資産} + \text{繰延資産}} \times 100$	65.8	66.4	67.1	66.5	比率が小さい程良いが、公営企業は施設事業でもあり、一般的に高いのが特徴。
固定負債構成比率 (%)	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総資本}} \times 100$	17.3	15.1	12.6	9.4	低い程良い。
自己資本構成比率 (%)	$\frac{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}}{\text{総資本}} \times 100$	77.8	79.9	82.5	85.0	50%以上が望ましい。

③ 財務比率

項目	公 式	28年度	29年度	30年度	元年度	備 考
固 定 比 率 (%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{繰延収益}} \times 100$	84.7	83.1	81.3	78.2	自己資本で固定資産をどの程度まかなっているかをみる。低い程良い。
固定資産対長期 資本比率 (%)	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	69.2	69.9	70.6	70.4	長期適合率 100%以下が望ましい。
流 動 比 率 (%)	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	696.2	670.0	674.2	603.7	短期債務に対して応ずべき流動資産が十分にあるかどうかの支払能力を示しており、公営企業では100%以上が望ましい。
酸性試験比率 (当座比率) (%)	$\frac{\text{現金預金} + (\text{未収金} - \text{貸倒引当金})}{\text{流動負債}} \times 100$	696.2	670.0	674.2	603.7	当座資産(現金、預金、未収金)と流動債務の対比で、支払能力をみる。100%以上が望ましい。
現 金 預 金 比 率 (%)	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}} \times 100$	693.1	667.4	671.5	600.7	即時支払能力をみる。 20%以上が望ましい。

④ 資産資本の回転率

項目	公 式	28年度	29年度	30年度	元年度	備 考
自己資本回転率 (回)	$\frac{\text{営業収益}}{(\text{期首自己資本} + \text{期末自己資本}) \times 1 / 2}$	0.02	0.02	0.02	0.02	自己資本の利用度をみる。 数値が高い程良い。
固定資産回転率 (回)	$\frac{\text{営業収益}}{(\text{期首固定資産} + \text{期末固定資産}) \times 1 / 2}$	0.02	0.02	0.03	0.03	固定資産の利用度を表す。 数値が高い程良い。
減 価 却 率 (%)	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{減価償却資産} + \text{当年度減価償却費}} \times 100$	3.44	3.50	3.59	3.70	固定資産に投下された資本の回収状況を表す。
流動資産回転率 (回)	$\frac{\text{営業収益}}{(\text{期首流動資産} + \text{期末流動資産}) \times 1 / 2}$	0.05	0.05	0.05	0.05	流動資産の利用度を表す。
未収金回転率 (回)	$\frac{\text{営業収益}}{(\text{期首未収金} + \text{期末未収金}) \times 1 / 2}$	10.60	10.84	12.78	11.21	未収金の回収の程度を表す。 数値が大きい程未収金の回収速度が良好。

⑤ 損益に関する比率

項目	公式	28年度	29年度	30年度	元年度	備考
総資本利益率 (%)	$\frac{\text{当年度経常損益}}{(\text{期首総資本} + \text{期末総資本})} \times 100$	△ 1.08	△ 1.12	△ 1.16	-	総資本に対する利益の割合を示す。 数値が高い程良い。
総収益対総費用比率 (%)	$\frac{\text{総収益}}{\text{総費用}} \times 100$	100.00	100.00	100.00	100.00	収益と費用の相対的な関連性を表す。
営業収支比率 (%)	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}} \times 100$	26.73	27.36	28.59	29.76	業務活動能率を表す。
利子負担率 (%)	$\frac{\text{支払利息} + \text{企業債取扱諸費}}{\text{建設改良費等の財源に充てられたるための企業債・長期借入金} + \text{その他の企業債・長期借入金} + \text{一時借入金}} \times 100$	2.95	2.99	3.05	3.14	資金調達のための負債に対する利子費用の利率の高低をみるもの。
経常収支比率 (%)	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	83.86	82.20	82.07	100.00	
企業債元金償還金対減価償却費比率 (%)	$\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{当年度減価償却費} - \text{長期前受金戻入}} \times 100$	4,263.67	4,328.66	3,532.24	2,216.58	起債元金が、その補てん財源である減価償却費に占める割合を表す。低い程良い。
企業債元金償還金 (%)	$\frac{\text{建設改良のための企業債元金償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$	170.78	188.14	184.13	195.20	企業債発行額が事業規模に適正かどうかを判断する基準で、低い程良い。
企業債利息 (%)	$\frac{\text{企業債利息}}{\text{料金収入}} \times 100$	34.82	32.18	25.62	21.06	〃
企業債元利償還金 (%)	$\frac{\text{建設改良のための企業債元利償還金}}{\text{料金収入}} \times 100$	205.59	220.32	209.75	216.26	〃
職員給与費 (%)	$\frac{\text{職員給与費}}{\text{料金収入}} \times 100$	85.07	75.28	59.39	58.41	

○各算式にて用いた用語の内容は次のとおりである。

- ① 減価償却資産 = 有形固定資産 + 無形固定資産 - 土地 - 立木 - 建設仮勘定 - 電話加入権
- ② 自己資本 = 有形固定資産 + 無形固定資産 - 土地 - 立木 - 建設仮勘定 - 電話加入権
- ③ 総資本 = 資本金 + 剰余金 + 繰延収益
- ④ 職員給与費 = 給料 + 手当 + 法定福利費 + 賞与等引当金繰入額 + 退職給付費 - 児童手当
- ⑤ 営業費用 = 事業費用 - 事業外費用 - 特別損失
- ⑥ 営業収益 = 事業収益 - 事業外収益 - 特別利益
- ⑦ 経常収益 = 事業収益 - 特別利益
- ⑧ 経常費用 = 事業費用 - 特別損失

(5) 工業用水道給水原価

区 分	平成28年度			平成29年度		
	原 価 (円)	1 m ³ 当たり (円)	比率 (%)	原 価 (円)	1 m ³ 当たり (円)	比率 (%)
人 件 費	10,172,907	43.90	29.6	8,401,446	38.31	28.0
支 払 利 息	4,163,818	17.97	12.1	3,590,778	16.38	12.0
減価償却費及び除却費	479,155	2.07	1.4	537,688	2.45	1.8
動 力 費	3,840,451	16.58	11.2	4,019,817	18.33	13.4
修 繕 費	5,005,400	21.60	14.5	5,272,482	24.05	17.6
薬 品 費	1,353,850	5.84	3.9	1,327,200	6.05	4.4
そ の 他 の 維 持 費	9,373,694	40.46	27.3	6,857,758	31.27	22.8
計	34,389,275	148.42	100.0	30,007,169	136.84	100.0
販 売 量 (m ³)	231,710	—	—	219,292	—	—
給 水 原 価 (円/m ³)	148.42	—	—	136.84	—	—
給 水 収 益 (円)	11,958,885	—	—	11,158,965	—	—
料 金 単 価 (円/m ³)	51.61	—	—	50.89	—	—

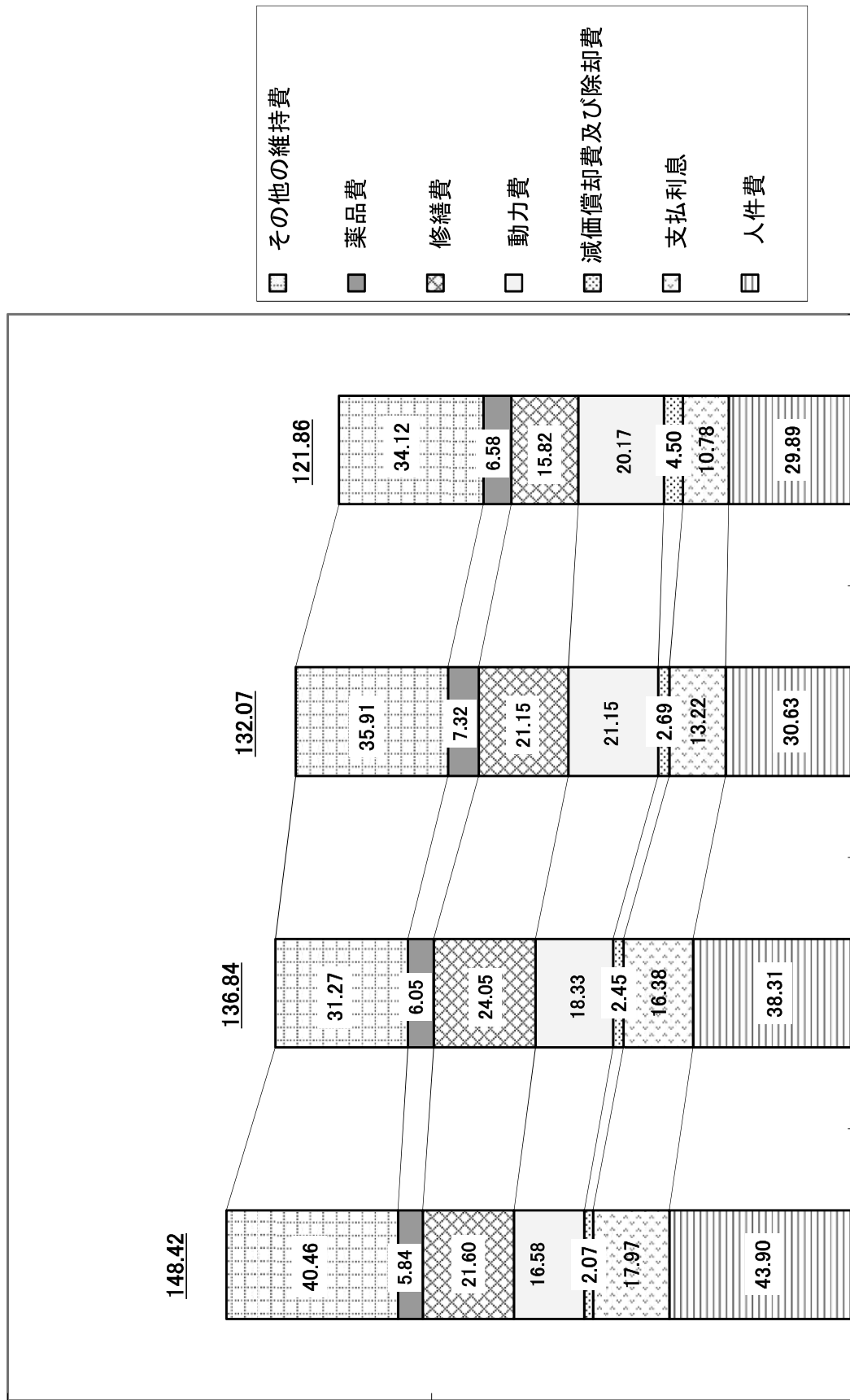
区 分	平成30年度			令和元年度		
	原 価 (円)	1 m ³ 当たり (円)	比率 (%)	原 価 (円)	1 m ³ 当たり (円)	比率 (%)
人 件 費	6,960,987	30.63	23.2	6,639,858	29.89	24.5
支 払 利 息	3,002,920	13.22	10.0	2,393,503	10.78	8.8
減価償却費及び除却費	610,687	2.69	2.0	1,000,300	4.50	3.7
動 力 費	4,806,976	21.15	16.0	4,481,189	20.17	16.6
修 繕 費	4,804,810	21.15	16.0	3,513,000	15.82	13.0
薬 品 費	1,663,400	7.32	5.6	1,460,600	6.58	5.4
そ の 他 の 維 持 費	8,160,876	35.91	27.2	7,578,811	34.12	28.0
計	30,010,656	132.07	100.0	27,067,261	121.86	100.0
販 売 量 (m ³)	227,231	—	—	222,110	—	—
給 水 原 価 (円/m ³)	132.07	—	—	121.86	—	—
給 水 収 益 (円)	11,720,880	—	—	11,366,955	—	—
料 金 単 価 (円/m ³)	51.58	—	—	51.18	—	—

工業用水道給水原価(1m³あたり)推移

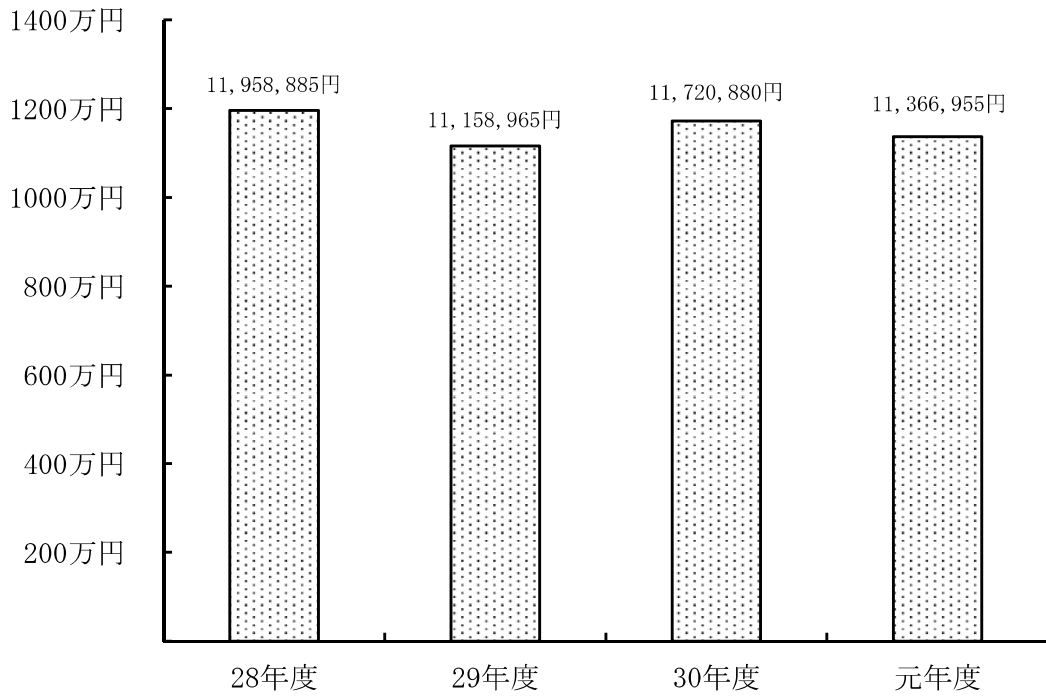
(単位:円)

200.00

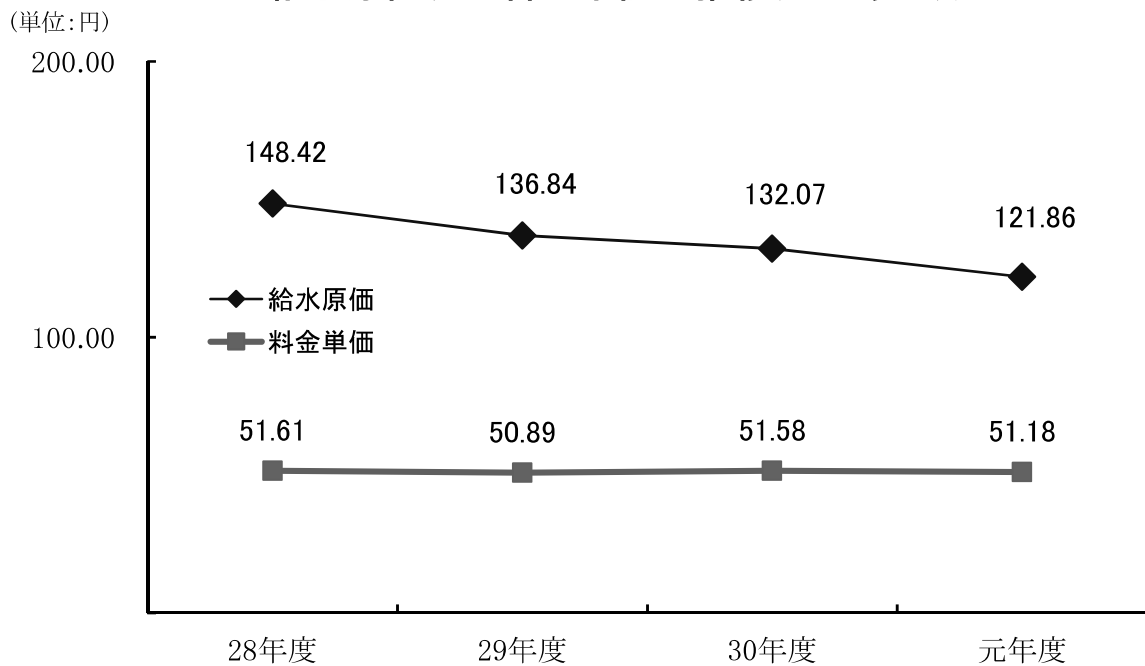
100.00



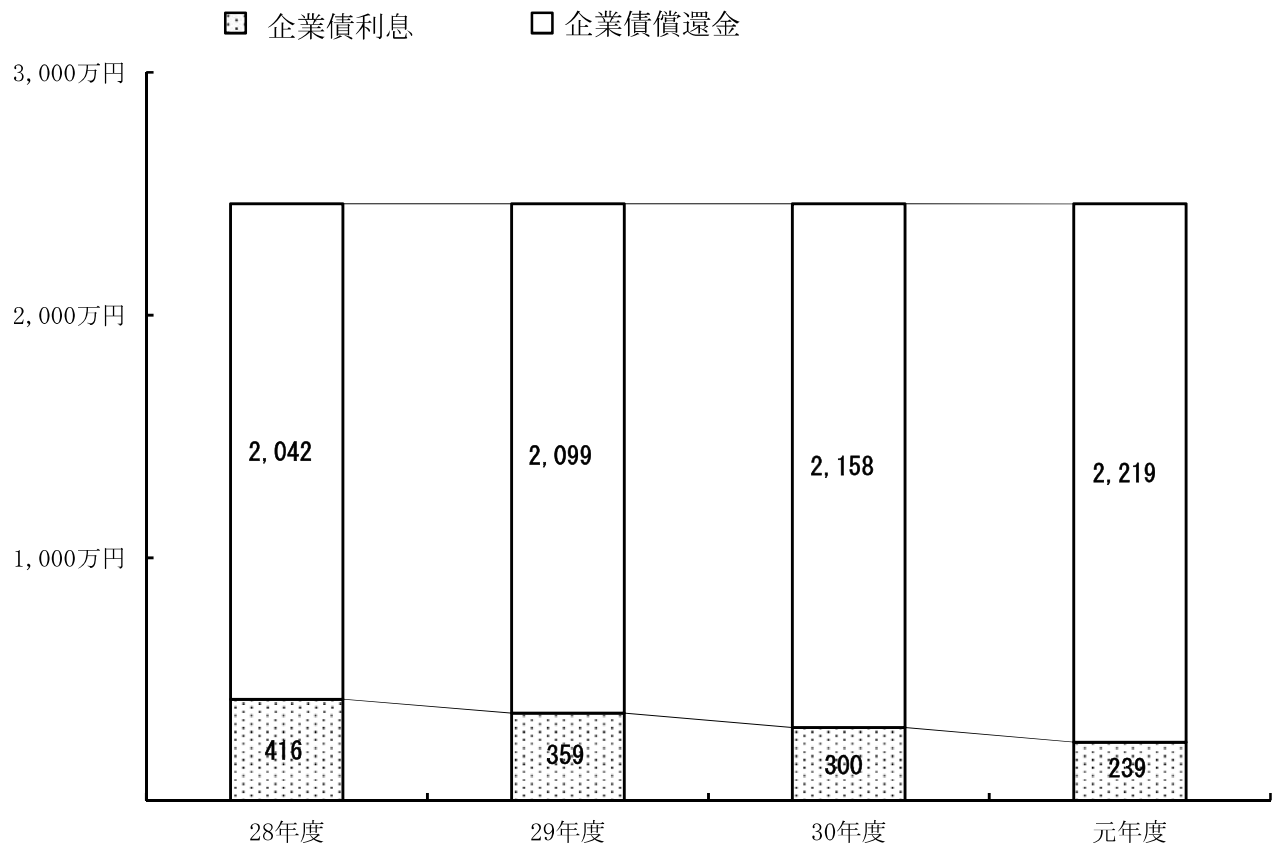
工業用水道料金収入（給水収益）の推移



給水原価及び料金単価の推移(1m³あたり)



企業債利息及び企業債償還金の推移



企業債残高の推移

